

大海原へ帆を上げ進め・女性部

想いを語ろう



副会長・広報編集委員長 中野兼司氏



女性部会長 東久保真弓氏



女性部副会長 加藤友美氏



女性部副会長 橋本万里子氏

参加者：一般社団法人愛知県産業廃棄物協会 女性部会長 東久保真弓氏
同上 〳 副会長 加藤友美氏
同上 〳 副会長 橋本万里子氏

司会：一般社団法人愛知県産業廃棄物協会副会長・広報編集委員長 中野 兼司氏

中野：本日はお忙しい中、女性部3名の方にお越しいただきありがとうございます。

昨年設立いたしました女性部の発足により、当愛産協においては大きな一歩を踏み出しました。今後、女性の活躍を推進することが当業界の発展においても重要課題であることを踏まえ、立ち上げからのお話などお聞かせください。

東久保：私は会長を務めさせていただいております有限会社愛知環境センター 代表取締役の東久保真弓と申します。

設立経緯につきましては、2018年の6月公益社団法人全国資源循環連合会の定時総会が東京で開催され、私はその席で公益社団法人東京都産業資源循環協会・女性部『e-Lady21』会長 二木玲子氏をご紹介いただき、お話しをさせていた

だく中で、初めて東京に女性部があることを知りました。

それを機に、二木会長と連絡を取り合うようになり、同年11月石川県において開催された「第17回 産業廃棄物と環境を考える全国大会」の中で関東地域協議会女性部会主催の女性部の会（意見交換会・グループワーク）に参加させていただきました。

率直な気持ちで恐縮ですが、“産業廃棄物処理業界における女性のイノベーションについて”というテーマに、参加者らの活発な意見が交わされ、一人で参加した私は圧倒されながらも、他県女性部から愛知県女性部設立への熱い励ましの声（仕事をしてきた中で感じた女性経営者としての孤立感を払拭してくれるようなパワー）をいただきました。と同時に私と同じ気持ちを持っているかもしれない愛知県

の女性会員と共感を得たいという気持ちが芽生え、設立に向けての行動を、いま起こさなくてはと強く決意しました。

その想いを掲げ、翌年2019年新年交礼会では会場内で女性参加者の方に名刺を配り続け、女性部設立の趣旨とご協力のお願いに回りました。

また、中野副会長をはじめ事務局の方にも応援していただき、多くの経営者の方とお話する機会をいただきましたことが、この後、実を結んだのではないかと思います。

このような過程を経て、同年9月に女性部の設立総会を迎えることができました。2018年6月から始まった設立へのゴールまでの1年3か月、多くの迷いや不安を抱えながら、重圧に押しつぶされそうになりましたが、いつしか「使命感」に駆られ目標達成に向け、女性部の先駆者の方々の応援、周りからのご支援が、私をここまで奮い立たせてくれたのだと感謝の念でいっぱいです。この場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

中野：振り返ってみますと、1年余りで一気に流れに乗って進まれて来たかのようですね。その中で「使命感」という言葉が印象に残りましたが、いつ頃からその意識は芽生えましたか。

東久保：今思えば、石川県全国大会での女性部の会合に参加した時、その場の空気感に圧倒されたこともあってか、“やらなければ”という意識が「使命感」として背中を押された瞬間かもしれません。

私の中で女性部設立を何年も温め続けるのではなく、他県の女性部の活躍を目の当たりにしたきっかけが、一步を踏み出す大きな刺激となりました。

中野：副会長の加藤さんと橋本さんは今の話を聞いていかがですか。

加藤：副会長を務めさせていただいております株式会社紙資源名古屋 代表取締役の加藤友美です。

私は東久保会長からお話を伺い、中部地域初の女性部を立ち上げたい、という会長の熱意が伝わってきましたので、業界における女性の評価向上を目指した革新的な取り組みに、少しでも役に立てればという気持ちから参加しました。

橋本：同じく副会長を務めさせていただいております有限会社伸和環境 取締役の橋本万里子です。私は東久保会長から電話で女性部設立のお話を伺い、お声かけをしていただきとても光栄でした。

会長は設立に向けた準備期間の1年数か月、産業廃棄物処理業界の女性の働きやすさを願い一人で東奔西走され、そのご苦勞を思いますと私で出来ることがあれば是非協力をさせていただきたいと即答いたしました。

東久保：本当に副会長お二人の協力があったからこそ、今この時を迎えられていると感謝しております。

中野：では、この一年間を振り返り、コロナ禍の影響も含めて多くの事業が中止及び再検討等になっておりますが、いかがでしょうか。

加藤：振り返りで一番印象に残っていることは昨年の「女性部設立総会」です。準備が短期間ではありましたが、関係者の方々、事務局の方々のご支援もあり、設立総会を迎えることができ感無量でした。また、総会後の意見交換は全員の方が積極的に発言され女性部への期待を感じる場となりました。

事業としては、2019年11月の「女性部会の集い in 神戸」への参加では全国から女性会員の方が集り、施設見学、講演会などを通じ、年齢や立場を問わず働く女性の在り方について、意識の向上を図ることができた有意義な時間でした。12月の「ランチ忘年会」では、気楽に話ができる雰囲気作りをコンセプトに、軽い食事をいただきながら、社内の困り事、人材育成について等、日頃のちょっとしたストレスの発散も含めた女性目線での事業を開催しました。2020年2月の「普通救命講習Ⅰ」では、女性でも救急時にできることを応急手当指導員から学び、性差・腕力に関係無く私たちができる救命について習得しました。

しかしこれ以降、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策にて愛知県においても緊急事態宣言が発出されましたので当女性部も各事業を中止としました。

開催された事業は数回ですが、今後はコロナ禍という状況を踏まえ会員の皆様と共に事業を企画・運営していきたいと思っております。

中野：ありがとうございました。新しい生活様式が提案されていますので、世相に沿った事業の運営をお願いいたします。その反映を受けてか、Web会議をご検討されていると聞きましたが実施する予定はありますか。

東久保：はい、10月末にWebを活用して「リモート意見交換会」を開催します。時流とは言え、操作に不慣れな会員もいますので、ネットワーク等の回線状況も含め、事前に操作確認を行ってからの実施となります。

もし、リモートでのコミュニケーションに好感触を得られれば、年末の忘年会も「リモート忘年会」を開催してみようか、という提案をしようとは思っております。

中野：それはユニークですね。ICTの活用は女性にとって時間の有効利用として強い味方となるようですね。

では次に、今後の女性部として役割、期待、展望、愛産協としては産業廃棄物処理業界においても含む形になりますがどうでしょうか。

橋本：まず、産業廃棄物処理業に携わる女性就業者の会社間の垣根を越え、事務方現場等それぞれの苦楽を分かち合える交流の場を提供することが、女性部で担う役割の一つではないかと思えます。

また、社会的にも女性の活躍が推進される中、産業廃棄物処理業界は男性業務の印象がありますので、今後女性部はSDGsの目標を定め、ジェンダーへの取り組みを事業の中で展開し、当業界の社会的評価の向上の一助として協力させていただければと考えています。

すなわち、女性が活躍できる業務環境＝産業廃棄物処理業界の発展、にもつながるのではないかと思いますので、私たち女性部の今後の活動がいかにか重要であるかを認識し、関係者の方々にご協力を賜り、コロナ禍のハンディはありますが、感染予防対策を十分に図った上で、積極的に事業の開催を進めてまいります。

中野：私は愛産協に女性部を設立したことこそが、

イノベーションへの第一歩ではないかと思っております。これからの女性部の活躍により、職場における女性の意識改革が起これば、女性の職域を大きく広げることが可能となり、男性しか対応できないという注意書きは必要無くなるかもしれません。

また、先ほど出ましたSDGsの目標に向けて取り組むことは、結果として多様性を受け入れていく社会の構築にもつながるのではないのでしょうか。

では、最後にお一人ずつ一言お願いします。

東久保：一つ目は、産業廃棄物処理業界のイメージアップを女性の力で推進していければと思っております。

二つ目は、女性部の中部地域連合会の設立です。中部地域で女性部が設立されているのは愛知県だけです。今後は愛知県女性部役員らで中部地域の他県協会に出向き、積極的に女性部の設立の働きかけを行なっていきます。しかし県によって女性会員が少ない所もあると聞きましたので、女性会員が少人数の県同士の協力ができないものか、中部地域で合体できないものか、何らか方法で中部地域がまとまる方向を現在他県協会と検討しています。

三つ目は、最終目標である全国女性部連合会の設立です。もちろんe-Lady21の二木会長をはじめとした関係者の皆様方のお力をお借りして設立を目指します。

橋本：私はこの業界が人気職業ランキング・ベスト10に入ることが夢です。ランキングに入る要素とは、高収入、社会的地位、などが挙げられているようです。少しでもその要素を取れ入れた職業に近づくには、女性部の今後の活動如何が関わってくると感じています。

近い将来、女性が産業廃棄物処理業界で仕事がしたい、環境保全に直結する業務に興味をわく、社会の重要インフラに関わる仕事に従事したい、と言っただけのような業界を目指し女性部の皆さんと当業界に向けて新たな情報発信を行ってまいります。

また、若い世代からお孫さんがいらっしゃるシニアの方、未婚既婚問わず、子育て真っ最中であって

も気兼ねなく子ども連れで事業に参加できます。気軽に女性部の活動を見学にお越しください！

加藤：女性部の存在は、女性経営者同士、事務職員同士等、それぞれの立場において共感を得られる、交流の場ではないかと感じました。

これまで会社以外で業務の話をするのが無かったため、一人で抱え込んでいた悩みや迷いを勇気を出して話したところ、皆さんも経験されたことであったりなど、他愛のないことから会員同士の距離が一気に縮まっていく場面を、何度か目の当たりにしました。女性部の役割として身近なところから各会員に寄り添い、温かい場所であることも必要な要素であると思います。

まだまだ手探り状態の運営ではありますが、会員同士の結束が少しずつ強まってきたように感じます。一つひとつの小さな変化に女性部の成長を感じる瞬間は胸が熱くなる「想い」がします。

東久保：20世紀は国それぞれの慣習による不平等から女性の立場を確立しようとする動きが女性憲章で謳われました。

21世紀の今、国内では国・経済団体等の取組として、女性の活躍「見える化」サイト、女性の活躍推進企業データベースサイト、ダイバーシティ経営企業100選、女性トラックドライバー「トラガール」の活躍の応援、女性活躍推進法に基づく「えるほし」認定企業一覧、愛知県においても平成25年9月に「あいち女性の活躍促進プロジェクトチーム」が設置され、社会における女性の活躍に大きな期待が向けられております。

このように社会背景が変わりつつある中、私たちも業界における女性の働きやすさを願う大きな目標を掲げております。しかし毎回難しい話をしているのかと問われると、実は事業や打ち合わせでは立場を越えた会員同士の交流を一番大切にしています。

先程も話しましたが、意外にも業界内の女性の皆さんは孤立されています。だからこそ女性部での普通の話が楽しく、初顔合わせにも関わらず直ぐに打ち解け、本音で語り、笑みがこぼれるような和やか



左から 橋本副会長、中野副会長・広報編集委員長、東久保会長、加藤副会長

※写真撮影時はマスクを外しておりますが対談時はマスク着用にて会話し、ソーシャルディスタンスを守り実施しております。

な雰囲気です。

設立一年ほどですが共通の意識で集うということは、このような素晴らしい化学反応を起こせるものかと感慨深いです。

私は愛知県女性部のメンバーであれば「全国へ」の夢が本当に叶うのではないかと・・・

女性部の立ち上げを考えておられる他県協会へはいつでも、どこへでも応援に伺わせていただきます。全国の女性の声が中央に届きますよう、日本の真ん中愛知県から発信したいと考えております。

中野：力強いお言葉で締めいただきありがとうございます。理屈ではない「想い」に強さが出てると、今日のお話から感じました。

やり遂げるというエネルギー、それは立ち上げの時の起爆剤として必要ではないか、損得を度外視してとにかくやってみよう、という「想い」の強さが今の女性部を動かしているエネルギーの根源のような気がしました。

女性部のこれからの活躍に期待いたします！

対談日：2020年9月28日

今後の予定

10/28：リモート意見交換会 協会3階会議室

11/19：愛知県副知事青山桂子氏へ役員3名表敬訪問

12/08：「女性活躍推進セミナー」講演会

講師 愛知県副知事青山桂子氏

講演会後意見交換会

アイリス愛知（名古屋市中区）午後2時～